

◆ 秋山 孝 Takashi Akiyama

1952-2022年 (日本)

新潟県長岡市に生まれる。多摩美術大学卒業。東京藝術大学大学院修了。2009年「秋山孝ポスター美術館長岡」が開館。現在、多摩美術大学教授、秋山孝ポスター美術館長岡・館長。エコロジーをテーマにユーモアと諷刺の利いた作品を数多く発表。日本に最初にバードカービングを紹介、92年のAIDSキャンペーンの個展が好評を博す。ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞、メキシコ国際ポスター・ビエンナーレ栄誉賞、ニューヨークADC国際展銅賞他。

◆ 勝井 三雄 Mitsuo Katsui

1931-2019年 (日本)

東京都に生まれる。東京教育大学卒業。56年(株)味の素に入社し、61年にフリーとなる。58年日宣美賞、65年毎日産業デザイン賞、72年講談社出版文化賞、東京ADC会員賞、ブルノ・グラフィックデザイン・ビエンナーレ金賞、84年ラハティ・ポスター・ビエンナーレ最高賞を受賞。大阪万国博、沖縄海洋博、つくば科学博にアートディレクターとして参加。また、世界で最も美しい本展銅賞、93年芸術選奨文部大臣省受賞。86年国際花と緑の博覧会シンボルマーク採用。

◆ 亀倉 雄策 Yusaku Kamekura

1915-1997年 (日本)

新潟県に生まれる。太田英茂主宰の共同広告事務所に勤務。38年日本工房に入社、60年日本デザインセンター設立。61年芸術選奨受賞、62年独立して亀倉デザイン研究所設立。以降、紫綬褒章、朝日賞、毎日芸術賞、日本文化デザイン大賞などを受賞。91年には文化功労者に選ばれ、海外でもワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞をはじめ数々の賞を受賞。日本グラフィック協会(JAGDA)会長、日本デザインコミッティー理事長を務めた。代表作に東京オリンピックポスター、NTTシンボルマークなど。

◆ 田中 一光 Ikko Tanaka

1930-2002年 (日本)

奈良市に生まれる。50年京都市立美術専門学校(現・京都市立芸術大学)卒業。大阪産経新聞社などを経て、日本デザインセンター設立に参加。65年田中一光デザイン室主宰。日宣美会員賞、ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ銀賞、芸術選奨部門大臣新人賞、N.Y.ADC金賞、毎日芸術賞、日本文化デザイン大賞などを受賞。73年より西武セゾングループのアートディレクターとして活躍し、「無印良品」のアートディレクションも担当。87年から88年にかけて日米の美術館等で回顧展開催。作品はニューヨーク近代美術館をはじめ内外多数の美術館に収蔵。

◆ 永井 一正 Kazumasa Nagai

1929年- (日本)

大阪に生まれる。51年東京藝術大学彫刻科中退。60年日本デザインセンター創立に参加。現在、最高顧問。日本グラフィック協会(JAGDA)特別顧問。60年以後、日宣美会員賞、朝日広告賞グランプリ、日本宣伝賞山名賞、亀倉雄策賞、勝見勝賞、ADCグランプリ、毎日デザイン賞、毎日芸術賞、通産省デザイン功労賞、芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、勲四等旭日小授章、ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞をはじめ数々の国際展でグランプリを受賞。作品は、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、富山県立近代美術館、ニューヨーク近代美術館(MOMA)、国際ワルシャワポスター美術館等に収蔵。

◆ 中川 憲造 Kenzo Nakagawa

1947-2019年 (日本)

大阪に生まれる。大阪市立工芸高校図案科卒業。高島屋宣伝部を経て、73年ポルト・ナットスタジオ設立。75年日本デザインセンター入社。現在同社取締役。80年ブルノ・グラフィックデザイン・ビエンナーレ特別賞受賞株式会社NDSグラフィックス代表。デザインディレクター。出版活動に「都市生活のスパイス・グラフィックス」1993年、「スカイセーラー・ポケットの星」1994年、「絵本・4メートルの線のものごと」1995年、「ホームグラウンド」1996年など。

◆ 中川 尚子 Hisako Nakayama

(日本)

岐阜県に生まれる。75年日本デザイナー学院グラフィックデザイン科卒。80年イラストレーターとして独立。95年デザインフォーラム*95銅賞、95年全国ポスターカタログ展入賞。第10回国民文化祭とちぎ95公式ポスター展参加。ミステリー小説などの装画を200冊ほど手掛ける(北村薫、乃南アサ、夏樹静子、赤川次郎他)。また、2004年東京交響楽団のオペラ「裏切られた海」、2007年度オペラ[ルプパ]の舞台イラストを担当。神戸モロゾフのクリスマスパッケージデザインを98年から24年間担当。絵本「兵士の笛」「土神と狐」(スタジオ・ノズ)がある。

◆ 早川 良雄 Yoshio Hayakawa

1917-2009年 (日本)

大阪市に生まれる。大阪市立工芸学校工芸図案科卒業後は三越百貨店大阪支店装飾部でウィンドウ・ディスプレイなど空間デザインの仕事に携わる。51年亀倉雄策や原弘らと「日本宣伝美術会」結成。54年に自身のデザイン事務所を設立。以降、大阪と東京を拠点に、ポスターや本の装丁、パブリック・アート、「顔たち」や「形状」シリーズをはじめとする多彩なシルクスクリーンやドローイング作品を手がける。59年、60年、67年ADC銀賞。70年日本万国博覧会の色彩基本計画に参加。78年第13回造本装幀コンクール通産大臣賞。81年第12回講談社出版文化賞。84年日本宣伝賞第5回山名賞。88年勲四等旭日小綬章。96年ADC「HALL OF FAME」(ADC殿堂入)。

◆ U.G.サトー U.G.Sato

1935年- (日本)

東京に生まれる。東京学芸大学中退、桑沢デザイン研究所卒業。72年「私の進化論」個展でユーモアと錯視に富む作風を確立。78年ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ、79年ラハティ国際ポスター・ビエンナーレ、96年ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ、88年モスクワ国際ポスター・ビエンナーレでいずれも金賞受賞。2012年AIPS国際ポスターショーで「ピカソ・デ・フェスタ」が一等賞受賞。絵本に『あか あお ふたりにで』『2本足と4本足』『にたものどうし』『あめかな!』『しまうまのさんぽ』(福音館書店)など多数。

◆ 横尾 忠則 Tadanori Yokoo

1935年- (日本)

兵庫県に生まれる。56年より神戸新聞社にてグラフィックデザイナーとして活動後、59年に独立。唐十郎、寺山修司、土方巽といった舞台芸術のポスターを数多く手がけ、69年にパリ青年ビエンナーレ版画部門大賞受賞。72年にはニューヨーク近代美術館で個展を開催。80年7月に同館で開催されたピカソ展に衝撃を受け、「画家宣言」を発表。以降、画家としてニュー・ペインティングと捉えられる具象的な作品を制作する。84年横尾の作

品を収蔵・展示する西脇市岡之山美術館が、また 2012 年横尾忠則現代美術館が兵庫県神戸市に開館。13 年には豊島横尾館が瀬戸内国際芸術祭の一環として香川県・豊島に開館。2015 年高松宮殿下記念世界文化賞絵画部門受賞。

◆ **アイヴァン・チャマイエフ** Ivan Chermayeff
1932 年- (イギリス)
ロンドンに生まれる。50 年代にハーバード大学やイエール大学デザイン研究所 (ニュー バウハウス) で学び、56 年に友人と事務所を設立。59 年に社名を『シャーマイフ & ゲイスマー』とし、企業や公共施設のロゴ制作を手掛けた。600 以上ものロゴやシンボルマークを制作し、抽象的なトレードマークを初めて開発した会社の一つ。代表作は MoMA、モービル、ナショナルジオグラフィック、ゼロックスなどその多くは現在も使われている。グラフィックデザインへの貢献が認められ、78 年には米国グラフィックアート協会 (AIGA) から金メダルを贈られ、AIGA の会長も務めた。日本で見られる作品は、大阪の水族館『海遊館』の魚の壁画で、建物は、息子のピーター・チャマイエフが設計。

◆ **シーモア・クワスト** Seymour Chwast
1931 年- (アメリカ)
ニューヨークに生まれる。クーパー・ユニオンでイラストレーションとグラフィックデザインを学ぶ。個性的なスタイルで現代のビジュアル・コミュニケーションに大きな影響を及ぼした。プッシュ・ピン・スタジオの創設メンバーの 1 人で、85 年に、ザ・プッシュ・ピン・グループに名称変更し、ディレクターとなる。様々なスタイルと媒体で仕事をしている。彼のデザイン、イラストレーション、版画やペインティングは、アメリカ、ヨーロッパ、日本、ブラジル、ソビエトの美術館などで展覧されている。

◆ **スタシス・エイドリゲヴィチウス**
Stasys Eidrigevicius
1949 年- (ポーランド)
リトアニアに生まれる。73 年ヴィリニウスの美術学校卒業。80 年ポーランド・ワルシャワに移り、以後、絵画、版画、挿絵、彫刻、写真、舞台など多方面で国際的に活躍。79 年ブラチスラバ国際イラストレーションビエンナーレで金のりんご賞、86 年バルセロナ国際イラストレーションビエンナーレでグランプリ受賞。87 年シカゴ国際映画祭金賞、パリ国際ポスター展大賞、89 年ラハティ国際ポスタービエンナーレ 1 位受賞。87 年東京と札幌で、88 年・90 年・2019 年東京で個展を開催。2000 年越後妻有トリエンナーレに参加。19 年ポーランド共和国の繁栄に貢献した人物に対して送られるコマンドール十字勲章受賞。

◆ **ソール・バス** Soul Bass
1920-1996 年 (アメリカ)
ニューヨークに生まれる。グラフィックデザイナーであり、映画作家。多くのトレード・マーク、アイデンティティ・システムを手がけており、ベル・システム、AT & T、ユナイテッド航空、紀文、コーセー、ミノルタなどがある。81 年エネルギー節約の大統領ホワイトハウス評議会シンボルをデザイン。アルフレッド・ヒッチコック監督による 60 年の映画『サイコ』、オットー・プレミンジャー監督の映画『カルメン』『黄金の腕』『悲しみよこんにちは』のポスターや映画タイトルデザインを制作。短編映画監督として、ベニス映画祭金賞、オスカー賞、モスクワ映画祭金メダルなどを受賞。グラフィック作品は、国内外のコンペで金賞等多数受賞。作品は MoMA、プラハ美術館などで永久保存。

(日本・海外・特別収蔵別、50 音順)

◆ **ミルトン・グレイザー** Milton Glaser
1929-2020 年 (アメリカ)
ニューヨークに生まれる。プッシュ・ピン・スタジオの共同創設者で 74 年まで社長。雑誌「ニューヨーク」の共同創立者で 76 年まで社長、クリエイティブ・ディレクターを務める。74 年以降ミルトン・グレイザー社の社長。75 年ニューヨーク近代美術館で個展。ワシントン D.C. のスミソニアン・ナショナル・アーカイブに作品収蔵。スクール・オブ・アーツ理事、クーパー・ユニオン評議員、アメリカ・グラフィック・アーツ協会 89 年全国会議で副議長を務める。93 年バルセロナ、ミラノ、日本で個展開催。

◆ **ヤン・レニツァ** Jan Lenica
1928-2001 年 (ポーランド)
ポーランドに生まれる。ワルシャワで建築を学ぶ。45 年に風刺漫画を描き始め、50 年よりポスターデザインを行う。同時にアニメーション映画や舞台装置デザイン、子供向け絵本のイラストレーションも手がける。86 年ベルリン芸術大学グラフィックデザイン教授就任。66 年ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ 1 位、87 年ポローニャ国際児童フェア・グラフィック賞受賞。

<特別収蔵>

◆ **アルフォンス・ミュシャ** Alfons Mucha
1860-1936 年 (チェコ)
チェコのイヴァンチツェに生まれる。ウィーンやミュンヘンで絵を学び、パトロンの援助を受けてパリに出てくる。生活のためにもあって、『フィガロ・イリュストレ』や『パリ生活』など多くの雑誌・新聞のために挿絵を描く。1894 年にミュシャは、女優サラ・ベルナルと出会い、彼女のためのポスター『ジスモンダ』や『メデア』を描き、大成功を収めた。優雅な曲線を多く用いたアールヌーヴォー調の表現は、人々を魅了した。装飾画やリトグラフにも活発に制作活動を広げた。1900 年のパリ万国博覧会では、ボスニア=ヘルツェゴビナのパヴィリオン装飾を担当。04 年にアメリカに渡り、09 年には祖国チェコに戻った。そして、祖国の叙事詩を雄大に描いた壁画を残している。

◆ **トゥールーズ・ロートレック** Toulouse Lautrec
1864-1901 年 (フランス)
フランス南部のアルビに生まれる。幼少期に脚を 2 度骨折したことが原因で、身長 150 センチほどで成長が止まる。17 歳のとき、画家になることを決心し、動物画家ルネ・プランストーに師事。89 年にモンマルトルにダンスホール「ムーラン・ルージュ」がオープンし、支配人から制作を依頼されたポスター《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ》で一躍人気画家となる。モンマルトルのスターを素早いデッサンと大胆な構図で描いた《ムーラン・ルージュ》、人物を醜くデフォルメすることで、都市に生きる人々の内面を表現した《ムーラン・ルージュにて》、浮世絵の影響を受けた《ディヴァン・ジャポネ》などの代表作を生み出す。

◆ **レイモン・サヴィニャック** Raymond Savignac
1907-2002 年 (フランス)
フランスのパリに生まれる。エコール・ラボワジェで学ぶ。35 年、A.M.カッサンドルと出会い、協力者となる。49 年、ベルナル・ヴィユモと開いた展覧会をきっかけに欧米の企業から仕事の依頼を受ける。その範囲は、新聞、万年筆、タイプライター、たばこ、電球、食品、靴など多岐にわたる。また、ユニセフ、国立図書館、美術館、映画などのポスター、雑誌の表紙なども手掛け、独特の発想と機智に富んだ作風から、「衝撃の人」(ヴィジュアル・スキャンダル)の仕掛け人)と呼ばれた。